

製品名: Cdc25B ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08506**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	65kDa

抗原情報

遺伝子名	CDC25B
別名	CDC25B; CDC25HU2; M-phase inducer phosphatase 2; Dual specificity phosphatase Cdc25B
遺伝子 ID	994.0
SwissProt ID	P30305
免疫原	抗血清はヒト CDC25B 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 289-338

背景

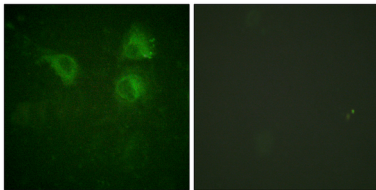
細胞分裂周期 25B (CDC25B) ホモサピエンス CDC25B は、CDC25 ファミリーのホスファターゼの一つです。CDC25B は、サイクリン依存性キナーゼ CDC2 の2つのリン酸基を除去することで活性化し、有糸分裂の開始に必須です。CDC25B は、核局在および核

外輸送シグナルにより、核と細胞質の間を移動します。このタンパク質は細胞周期の M 期および G1 期には核内に存在し、S 期および G2 期には細胞質へ移動します。CDC25B は発癌性を有しますが、腫瘍形成における役割は未だ解明されていません。この遺伝子には複数の転写産物バリエーションが存在します。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],触媒活性: タンパク質チロシンリン酸 + H(2)O = タンパク質チロシン + リン酸。 ,酵素調節: B 型サイクリンによって刺激される。 ,機能: チロシンタンパク質ホスファターゼは、用量依存的に有糸分裂進行を誘導する。CDC2 を直接脱リン酸化してキナーゼ活性を刺激する。3 つのアイソフォームはそれぞれ異なる活性レベルを示す。 ,PTM: in vitro において BRSK1 によってリン酸化される。CHEK1 によってリン酸化され、CHEK1 はこのタンパク質の活性を阻害する。 ,類似性: MPI ホスファターゼファミリーに属する。 ,類似性: 1 つのロダネーゼドメインを含む。 ,

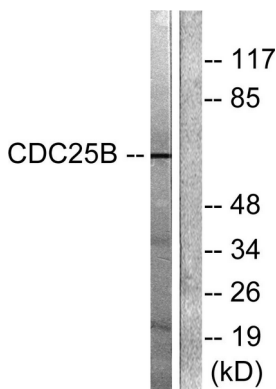
研究分野

MAPK_ERK_Growth;MAPK_G_Protein;Cell_Cycle_G1S;Cell_Cycle_G2M_DNA;プロゲステロンによる卵母細胞成熟;

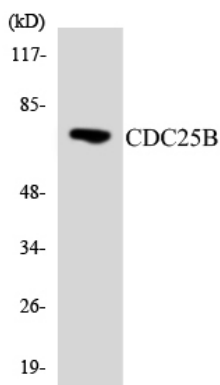
画像データ



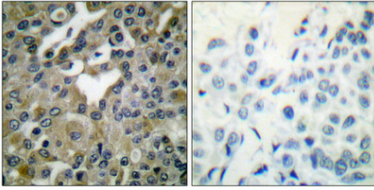
CDC25B 抗体を用いた HUVEC 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



Raw264.7 細胞ライセートを Hu 2nM で 24 時間処理し、CDC25B 抗体を用いてウェスタンブロット解析を行った。右レーンには合成ペプチドでブロッキングした。



CDC25B 抗体を使用した HeLa 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4℃、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。